

住宅地に暮らすコウモリたち

8月のちょうどお盆の頃、斜里小学校の教頭先生からコウモリの死体が届けられました。小学校北側にある教員アパート近くの街灯下で死んでいたそうです。このコウモリはキタクビワコウモリ（ヒメホリカワコウモリ）で、環境省レッドデータブックではEN（絶滅危惧ⅠB）に指定されている希少種です。今年生まれた子であったことから、近くで繁殖ねぐらがある可能性が高いと考え、死体の発見場所付近を探し回りました。しかしコウモリが入り込み、中で繁殖できるような隙間や穴を発見することはできませんでした。

8月末、再び教頭先生から、同じ教員アパートの2階ベランダと壁面で死体を見つけたと連絡がありました。これまた今年生まれの子で、ますますこのアパートが怪しくなってきました。そこで今度はバットディテクター（通常人には聞こえないコウモリの超音波を人が聞くことができる周波数帯に変換する装置）や暗視ビデオカメラなどハイテク装備を動員して、現場付近を再調査することにしました。

まずコウモリたちが餌をとるためにねぐらを飛び出す日没前に、バットディテクターで、ねぐらをさがすことにしました。アパートの周辺をうろろする私の姿は、きっととても怪しい人に見えたに違いありません。しばらくうろついてようやくディテクターから「パチパチ」というコウモリの出す超音波らしき音が入る場所を見つけました。上を見上げると屋根の軒下の通風口があります。ちょうどすぐ横に点検用のハシゴがあったので、登ってみることにしました。ハシゴを登るにつれてディテクターからの音は大きくなります。通風口に近づけると、確かに音源は通風口の中ようです。よく見るとネズミの糞とモモンガの糞の中間のような形のコウモリの糞が壁面にひっついていました。どうもトタン屋根とモルタルの壁面の隙間に出入口があるようですが、ハシゴにぶら下がった私からはよく見えません。一旦下に降りて、日没を待ってねぐらから飛び出すようすを観察することにしました。

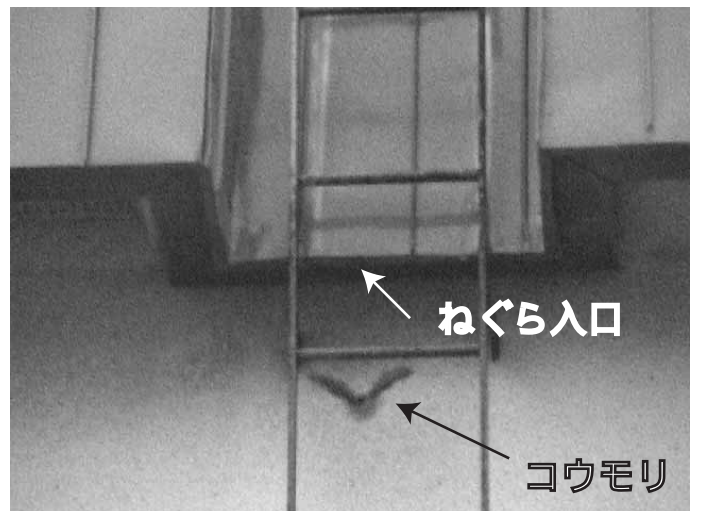
日没から数分後、ディテクターから聞こえる「パチパチ」というコウモリの声が大きくなり、ちょうどハシゴの下の部分から、黒いものが顔を出しました。コウモリだ！少しあたりのようすをうかがった後、音もなく飛び出しました。飛び出した瞬間、コウモリの声はそれまでの「パチパチ」音から、「バン、バン、バン」という音に変わりました。獲物を探索する超音波を発しているのです。1頭が飛び出すと、後に続いて次々と暗闇の中に消えていきました。

キタクビワコウモリは子が成長すると次第に繁殖場所から分散していきます。このねぐらには8月末で最大43頭の

コウモリが確認されましたが、この時すでに分散が始まっていたと考えられ、ピークにはもっとたくさんのコウモリがいたと思われます。その後、このねぐらのコウモリの数には次第に減少し、10月には姿を消しました。来春には再びコウモリたちはこの場所に戻り、新しい命が生まれるはず

です。もともとは樹洞などで繁殖するコウモリですが、美幌町でも建物の隙間をねぐらとする繁殖集団が見つかっています。コウモリたちの住宅難は深刻なのかもしれません。コウモリを気味悪く思う人もいるかもしれませんが、人にとってやっかいな蚊なども含む昆虫を大量に食べるコウモリが身近に暮らしていることは、むしろ歓迎すべきことです。今後もそっと見守ってやりたいものです。

（増田）



事務局より

今月号は特別展の図録を同封しました。野外図鑑として使用できるハンディタイプです。是非活用して下さい。特別展は12月8日まで開催中！ご来館お待ちしております。

発行 斜里町立知床博物館協力会 2002.10.15
099-4113
北海道斜里郡斜里町本町49 斜里町立知床博物館内
TEL:01522-3-1256/FAX: 3-1257
<http://www5.ocn.ne.jp/~museumsp/>